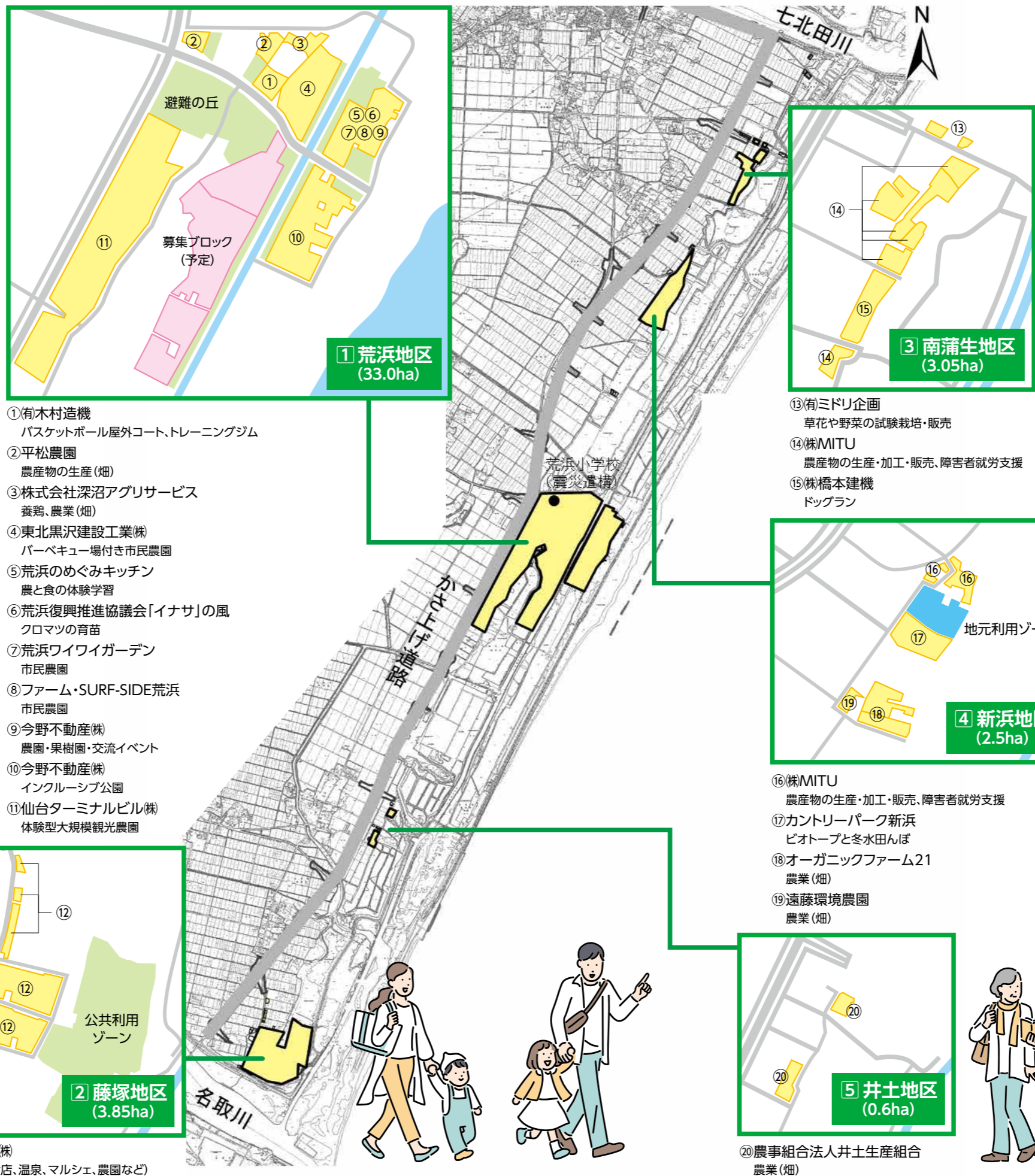


# 東部地域から

# 仙台の新たな未来を切り開く!

東日本大震災から10年が経過した今もなお、さまざまな場所で続けられている復興事業。津波により甚大な被害を受けた、荒浜地区をはじめとした仙台市東部地域では、住民の方々の集団移転が完了し、その跡地を活用することで新たな魅力を創出する場所しようとして、公民連携による取り組みが進められています。

今月号では、現在進められている東部地域における集団移転跡地活用事業の概要、新たなにぎわいの創出に取り組みされている事業者をご紹介します。



## 人と人をつなぐ魅力的なエリアが誕生します。

### 移転跡地に新しいにぎわいを

仙台市では、東日本大震災の津波被害を受けた東部沿岸地域のうち、約154haについて、そこに住まいを持つ方々を対象とし、より安全な内陸部への移転を進める防災集団移転促進事業が進められてきました。2011年12月、本地域が住宅の新築や増築

等ができない災害危険区域に指定され、仙台市により被災した土地の買い取りが進められてきたという経緯を辿り、「①荒浜」「②藤塚」「③南蒲生」「④新浜」「⑤井土」の5地区を対象に、具体的な検討が加えられてきました。事業者の公募にあたっては、市民や起業家、NPO、企業などが自由な発想で主体的に取り組めるよう、可能な限り低廉な借地料を設定するなど、多くの取り

組みを支援し、できるだけ多様性のある企業や市民の参加を促してきました。その結果、南蒲生地区には天然芝のドッグラン「ガモウパーク」、荒浜地区には体験型大規模観光農園「J-Rフルーツパーク仙台あらはま」、藤塚地区には飲食店や温泉などの複合施設「アクアイグニス仙台」といった、地域特性を生かした魅力的な施設が新たに生まれてきています。また、移転跡地で事業を行う

事業者間はもちろん、近郊エリアの事業者とも連携することで、近隣住民だけではなく、広く、仙台市民や観光客の方にも喜んでもらえるようなにぎわいを作り出そうと、新たな取り組みも進められています。

次のページからは、こうした取り組みを進めている事業者をご紹介します。



## [ 選定事業者紹介 ]

集団移転跡地の利活用事業者として  
選定された方々にお話を伺いました

### 「トキを消費する」空間

2022年春のオープンを目指し、藤塚地区に温泉や農園などの複合施設「アクアイグニス仙台」をつくっています。約3万8000㎡の敷地に、温泉「藤塚の湯」と2つの産直マルシェ、パティスリー、ベーカリー、イタリアンレストラン、和食レストランがそろいます。世界的に著名なシェフの監修によるメニューを提供しますので、注目度も高いと思います。

そこで目指すものは、そのとき、その場でしか味わえないものを楽しむ「トキ消費」。もともと農業地帯で、目の前には海。この素晴らしいロケーションの中で、温泉に入って心身の疲れを癒やしていただき、おいしいものを味わい、ゆっくり過ごしていただくことを大切にしながら計画を進めています。そこでは、地元農家の方々がつくった食材を大いに使わせていただくことはもちろん、産直マルシェでの販売もさせていただこうと考えています。また、温泉の休憩室はライブラリースペースにし、お風呂上がりにもでも読みながらゆっくりしていただく、まさに「時を消費」する空間にしたいと思っています。

### 町のにぎわいを取り戻そう

実は、東日本大震災の発災当時から藤塚地区にはご縁があり、震災当日、私が社長を務める深松組で堤防工事を行っていました。14時46分、立つていられないほどの揺れと、堤防にみるみる入る亀裂、ラジオから流れてくる6mの大津波警報を聞いて、工事に携わっていた従業員はその場から避難しましたが、藤塚地域に住んでいた多くの方が津波の犠牲になりました。震災後も、東部復興道路の藤塚工区の工事に携わることになったのですが、何もかもが無くなってしまったこの地域を何とかできないだろうかという思いを当時から抱いていました。それが今回の利活用事業に応募した動機です。

この施設の経営を行う仙台rebornは、建設業の深松組、飲食や温泉施設業などを手がけるアクアイグニス(本社:東京都、店舗:三重県)、飼肥の卸からホテル経営なども行う福田商会(若林区新寺)の3社で構成されています。アクアイグニスの立花哲也社長とは、10年来の同じ建設業の仲間で、震災時には、食料や燃料を三重から運んで来てくださいました。女川にも何度も訪れ、炊き出しをしてくれたりと、熱い思いをお持ちの方で、本当にお世話になりました。また、福田商会の福田大輔専務とは、20年近いお付き合いで、以前に別のプロジェクトで一緒にしたこともありました。

実は、当初、施設の建設だけを深松組で受けもち、運営はアクアイグニスにお願いしようと思っていました。しかし、「地元企業が経営をするべきだ」と立花社長からアドバイスを受け、レストラン運営のノウハウを有する福田商会に飲食部門、残るマルシェと温泉施設の運営を深松組が受けもち、アクアイグニスには、全体の監修として参画してもらうこととしました。

三者に共通するのは、「町のにぎわいを取り戻そう」という意志。国内外からの復興支援への感謝と、100万人規模の都市が津波によって甚大な被害を受けた経験を伝えること、そして、震災前にこの地域で暮らしていた住民の方々に、喜んでいただけるようなエリアにすることを目標に、ゆったりとした時間を過ごすことができる施設にしていきたいと考えています。そのためにも、藤塚を含む5地区で事業を行う皆さんとの連携はもとより、名取の「かわまちテラス閑上」や整備が進む貞山堀周辺、「名取市サイクルスポーツセンター」といった周辺地域の施設なども含めて、新たな観光ルートを形成できたらすばらしいと思っています。また、企業内保育所を設けるなど、従業員の働きやすい環境も整備し、積極的に地域の方々にも入っていただきたいと考えています。復興の集大成として、「東部地域がこんなに楽しい場所になったね」と多くの方々に言っていただけのように、努めたいと思います。



スマート農業の実践地として、最新技術を積極的に取り入れることで、作物が育ちやすい環境を整備。今後、収穫された果物は、首都圏や海外への出荷も視野に入れている。

本施設には、地球温暖化の原因になりにくい「地中熱回収システム」が東北で初めて導入されるなど、地域の環境にも配慮。さまざまな面で復興・創生のシンボルとなる施設を目指す。

### 荒浜地区 JRフルーツパーク仙台あらはま

ここでしか味わえない  
東部沿岸部ならではの  
魅力を提供します。

仙台ターミナルビル(株) 代表取締役社長  
まつざき てつしろう  
**松崎 哲士郎**氏



### 藤塚地区 アクアイグニス仙台

5地区一体となった  
にぎわい創出を  
目指します。

仙台reborn(株) 代表取締役  
ふかまつ つとむ  
**深松 努**氏  
(株)深松組 代表取締役社長



**1年中、果物を楽しめる場所に**  
荒浜地区に「JRフルーツパーク仙台あらはま(以下、フルーツパーク)」をオープンしました。震災から10年目の2021年3月に開業できたことを大変うれしく思っています。震災前、この地域にお住まいになっていた方々、農業を営んでいらした方々から、「津波で何もなくなってしまうけれど、昔に戻ったようであれしい」というお言葉を頂戴し、本当にありがたいですし、これからもご期待に沿う事業にしていかなければならないという思いです。

も珍しい「1年を通して旬の果物を摘み取ることができる」をコンセプトに、交流人口の拡大と農業振興、新たなにぎわい創出を使命として、たくさんの挑戦をしながら進めている事業です。2022年からはコンセプト通り1年中、果物の摘み取りができるようになりますし、そこで採れた高い品質の果物や地元産の野菜を販売したり、施設内のレストランとカフェでそれらを味わえるだけでなく、市中のレストラン等へも供給していきます。

### 直営農業で沿岸部に元気を

弊社は、エスパル仙台をはじめとするショッピング事業およびホテル事業等を行

フルーツパークは、東北初で全国的に

希望する従業員も多くいます。

う企業なので、「なぜ農業を行うのですか」という質問をよく受けます。それは以下のような経緯と想いがあるからです。

事業エリアを本社のある仙台・宮城、そして山形、福島とする弊社は、東北に生きる企業として、震災復興に寄与することが最も大きい使命と捉えています。また多くの従業員が被災していることから、東日本大震災は「わがこと」であり、だとすれば私たちに何ができるかを考えました。その中で着手したのが、1次産業へのチャレンジです。農業事業は、2015年6月に受託した若林区荒井の「せんだい農業園芸センター」みどりの杜(以下、みどりの杜)の運営から始まりました。この経験を生かして次に参画したのが、今回のフルーツパークなのです。土づくりはもとより風、水といったこの土地で農業を行うのに必要な全てのことを勉強してきましたし、これからも続けていきたいと思っています。直営の農業で、このエリアににぎわいを取り戻す機会を得ることができ、今はとてもやりがいを感じています。

また、弊社が運営するホテルでは、地元でとれた素材を吟味して提供しており、料理人たちは常によりよい食材を求めてきました。それだけに食材には並々ならぬ愛情を持っています。そのため、農業に従事されている方々とは以前からつながりがあり、農業とは親和性が高い企業であると自負しています。それを裏付けるように、フルーツパークでの仕事を

フルーツパークの特徴は「体験型」と「大規模」。約10万6700㎡という広大な敷地の中で育った果物を摘み取り、味わったりするだけでなく、さまざまな出会い、特に荒浜の歴史も含めて体験・体感していただくという意味合いがあります。ここで育てている8品目156種類の果物の中には、宮城初の品種があったり、新しい品種の育成にも挑戦しています。みどりの杜の運営で培った知識や技術をこの荒浜でも存分に発揮し、相乗効果でよりよいものを提供したいと思っています。

先日、新たに集団移転跡地利活用事業の事業者が選定されました。これから事業を始められる方々とも連携し、「東部地域の回遊」をキーワードに、東部復興道路の完成で行き来がスムーズになった仙台空港、うみの杜水族館も含めた新たな連携の形について考えていきたいと思っています。それによって、お越しいただいた方々に、東部地域に長時間滞在していただけるような「楽しみ」をつくり出していきたいですね。

「東北で最も多くのゲストをお迎えしてきた私たちのホスピタリティは、どこにも負けない」という自負を胸に、国内はもちろん、外国のお客さまも惹きつけるエリアになることを目指していきます。このエリア一帯が、地域の皆さんや観光客の方々に喜んでいただけるような、笑顔のあふれるエリアになるよう努めていきます。



## 東部沿岸地域および 近郊の主な施設

仙台商工会議所では、今後も地域活性化に向けた取り組みを後押ししていきます。  
盛り上がりを見せる東部地域にご期待ください。



### ① ガモウパーク

東北最大級の全天候型ドッグラン。2020年6月開業。

### ② 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

震災時の津波から多くの児童や住民の命を守った小学校の校舎を震災遺構として公開。



### ③ JRフルーツパーク仙台あらはま (5ページ参照)

1年を通して旬の果物の摘み取りができる体験型観光農園。

### ④ 海岸公園冒険広場

2018年7月に開園を再開した、デイキャンプ場や遊び場、高台のある遊具広場の複合された公園。



### ⑤ アクアイグニス仙台 (4ページ参照)

温泉、産直マルシェ、レストランなどの複合施設。2022.4月開業予定。

### ⑥ かわまちてらす閑上

生まれ変わった閑上のまちを照らし、川辺の憩いのテラスとなるようにと、願いが込められた商業施設。



より良い環境をめざす。

青葉環境保全 **AOBA**

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)